

「アフリカ　I・II」参考図書補遺

2012年8月

- 「アフリカII」初版刊行（2008年4月）以後も、日本でもアフリカ関連書籍が多数刊行されました。同書中の余白には入りきらない量にのぼりましたので、以下に、おもなものについてのリストをまとめてみました。
- リストは、刊行年ごとに、著者50音順に並べています。以下では研究にかかるものに大まかに限っていますが、これ以外にもエッセイなども多く刊行されています。

●2008年

- ・ITEAS「紛争と危機管理」研究班（編著）（2008）：西サハラをめぐる紛争と新たな文脈—協議による西サハラ問題解決への新たな希望—、パレード、星雲社（発売）.5
- ・飯田 順（2008）：海を生きる技術と知識の民族誌—マダガスカル漁撈社会の生態人類学—、世界思想社。
- ・ゲスト、ロバート（著）伊藤真（訳）（2008）：アフリカ—苦悩する大陸—、東洋経済新報社。
- ・コリアー、ポール（2008）：最底辺の10億人、日経BP社。
- ・椎野若菜（2008）：結婚と死をめぐる女の民族誌—ケニア・ルオ社会の寡婦が男を選ぶとき—、世界思想社。
- ・武内進一（編）（2008）：戦争と平和の間—紛争勃発後のアフリカと国際社会—、日本貿易振興機構アジア経済研究所。
- ・戸田真紀子（2008）：アフリカと政治：紛争と貧困とジェンダー—わたしたちがアフリカを学ぶ理由—、御茶の水書房。
- ・西浦昭雄（2008）：南アフリカ経済論—企業研究からの視座—、日本評論社。
- ・福井勝義、竹沢尚一郎、宮脇幸生（編）（2008）：サハラ以南アフリカ（講座世界の先住民族：ファースト・ピープルズの現在）、明石書店。
- ・松園万亀雄、繩田浩志、石田慎一郎（編著）（2008）：アフリカの人間開発—実践と文化人類学—、明石書店。
- ・松原康介（2008）：フェスの保全と近代化—モロッコの歴史都市—、学芸出版社。
- ・松村圭一郎（2008）：所有と分配の人類学—エチオピア農村社会の土地と富をめぐる力学—、世界思想社。
- ・松本仁一（2008）：アフリカ・レポート 壊れる国、生きる人々、岩波新書。
- ・宮治一雄、宮治美江子（編著）（2008）：マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—、大学図書出版。
- ・吉國恒雄（2008）：燃えるジンバブウェ—南部アフリカにおける「コロニアル」・「ポストコロニアル」経験—、晃洋書房。
- ・吉田栄一（編）（2008）：アフリカ開発援助の新課題—アフリカ開発会議TICAD IVと北海道洞爺湖サミット—、日本貿易振興機構 アジア経済研究所。

●2009年

- ・安積敏政（2009）：激動するアジア経営戦略—中国・インド・ASEANから中東・アフリカまで—、日刊工業新聞社。

- ・井上耕一（写真・文）（2009）：人類発祥の地にいま生きる人々—アフリカ大地溝帯エチオピア南西部—（身体装飾の現在1），朝倉書店。
- ・大林 稔，石田洋子（編著）（2009）：アフリカにおける貧困者と援助，晃洋書房。
- ・落合雄彦（編著）（2009）：スピリチュアル・アフリカ—多様なる宗教的実践の世界—，晃洋書房。
- ・川田順造（編）（2009）：新版 アフリカ史，山川出版社。
- ・私市正年（編著）（2009）：アルジェリアを知るための62章，明石書店。
- ・小倉充夫（2009）：南部アフリカ社会の百年—植民地支配・冷戦・市場経済—，東京大学出版会。
- ・児玉由佳（編）（2009）：現代アフリカ農村と公共圏，日本貿易振興機構アジア経済研究所。
- ・小山直樹（2009）：マダガスカル島—西インド洋地域研究入門—，東海大学出版会。
- ・佐藤千鶴子（2009）：南アフリカの土地改革，日本経済評論社。
- ・ジャイルズ，ブリジット（2009）：ナイジェリア（ナショナルジオグラフィック世界の国），ほるぷ出版。
- ・白戸圭一（2009）：ルポ資源大陸アフリカ—暴力が結ぶ貧困と繁栄—，東洋経済新報社。
- ・武内進一（2009）：現代アフリカの紛争と国家—ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジエノサイド—，明石書店。
- ・田中正隆（2009）：神をつくる—ベナン南西部におけるフェティッシュ・人・近代の民族誌—，世界思想社。
- ・地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会（編集）（2009）：総特集アフリカ—「希望の大陸」のゆくえ—，京都大学地域研究統合情報センター，昭和堂（発売）。
- ・トンプソン，レナード（著） 宮本正興【ほか】（訳）（2009）：南アフリカの歴史，明石書店。
- ・西 真如（2009）：現代アフリカの公共性—エチオピア社会にみるコミュニティ・開発・政治実践—，昭和堂。
- ・西崎伸子（2009）：抵抗と協働の野生動物保護—アフリカのワイルドライフ・マネージメントの現場から—，昭和堂。
- ・服部正也（2009）：増補版 ルワンダ中央銀行総裁日記，中公新書。
- ・平野克己（2009）：南アフリカの衝撃，日本経済新聞出版社。
- ・平野克己（2009）：アフリカ問題—開発と援助の世界史—，日本評論社。
- ・ミッシェル，セルジュ ミッシェル・ブーレ（著） パオロ・ウッズ（写真） 中平信也（訳）（2009）：アフリカを食い荒らす中国，河出書房新社。
- ・宗近功（編著）（2009）：レムール—マダガスカルの不思議なサルたち—，東京農業大学出版会。
- ・歴史学研究会（編）（2009）：南アジア・イスラーム世界・アフリカ—18世紀まで—（世界史史料），岩波書店。
- ・山田肖子（2009）：国際協力と学校—アフリカにおけるまなびの現場—，創成社新書。
- ・ロス，ロバート（著） 石鎚優（訳）（2009）：南アフリカの歴史，創土社。

●2010年

- ・池野 旬（2010）：アフリカ農村と貧困削減—タンザニア開発と遭遇する地域—，京都大学学術出版会。
- ・今村 薫（2010）：砂漠に生きる女たち，どうぶつ社。
- ・岩田拓夫（2010）：アフリカの地方分権化と政治変容，晃洋書房。
- ・大津司郎（2010）：アフリカンブラッドレアメタル—94年ルワンダ虐殺から現在へと続く『虐殺の道』

一、無双舎.

- ・岡倉登志（2010）：アフリカの植民地化と抵抗運動，山川出版社世界史リブレット.
- ・小川 了（編著）（2010）：セネガルとカーボベルデを知るための60章，明石書店.
- ・小田英郎【ほか】（監修）（2010）：アフリカを知る事典 新版，平凡社.
- ・亀井伸孝（2010）：森の小さな〈ハンター〉たち—狩猟採集民の子どもの民族誌—，京都大学学術出版会.
- ・川端正久，武内進一，落合雄彦（編著）（2010）：紛争解決アフリカの経験と展望，ミネルヴァ書房.
- ・木村大治，北西功一（編）（2010）：森棲みの生態誌（アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 1），京都大学学術出版会.
- ・木村大治，北西功一（編）（2010）：森棲みの社会誌（アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 2），京都大学学術出版会.
- ・栗田和明（2010）：マラウイを知るための45章（第2版），明石書店.
- ・国立民族学博物館（撮影・製作）（2010）：現代アフリカの都市（みんぱく映像民族誌第2集），国立民族学博物館.（ビデオ（ディスク））
- ・コリアー，ポール（2010）：民主主義がアフリカ経済を殺す，日経BP社.
- ・佐藤 章（編著）（2010）：新興民主主義国における政党の動態と変容，日本貿易振興機構アジア経済研究所.
- ・佐藤 誠（編）（2010）：越境するケア労働—日本・アジア・アフリカ，日本経済評論社.
- ・嶋田義仁（2010）：黒アフリカ・イスラーム文明論，創成社.
- ・鷹木恵子（編著）（2010）：チュニジアを知るための60章，明石書店.
- ・高橋基樹（2010）：開発と国家—アフリカ政治経済論序説—，勁草書房.
- ・デ キーウィト，C.W.（著）野口建彦・野口知彦（訳）（2010）：南アフリカ社会経済史，文眞堂.
- ・日本国際政治学会（編）（2010）：グローバル化の中のアフリカ（国際政治 159号），有斐閣（発売）.
- ・船田クラーセンさやか（編）（2010）：アフリカ学入門—ポップカルチャーから政治経済まで—，明石書店.
- ・峯 陽一（編著）（2010）：南アフリカを知るための60章，明石書店.
- ・峯 陽一，武内進一，笹岡雄一（編）（2010）：アフリカから学ぶ，有斐閣.
- ・宮治美江子（編著）（2010）：中東・北アフリカのディアスボラ，明石書店.
- ・米川正子（2010）：世界最悪の紛争「コンゴ」—平和以外に何でもある国—，創成社新書.

●2011年

- ・石田 憲（2011）：ファシストの戦争—世界史的文脈で読むエチオピア戦争—，千倉書房.
- ・井野瀬久美恵，北川勝彦（編著）（2011）：アフリカと帝国—コロニアリズム研究の新思考にむけて—，晃洋書房.
- ・上田 元（2011）：山の民の地域システム—タンザニア農村の場所・世帯・共同性—，東北大出版会.
- ・「NHKスペシャル」取材班（2011）：アフリカ—資本主義最後のフロンティア，新潮新書.
- ・小川さやか（2011）：都市を生きぬくための狡知—タンザニアの零細商人マチンガの民族誌—，世界思想社.
- ・織田雪世（2011）：髪を装う女性たち—ガーナ都市部におけるジェンダーと女性の経済活動—，松香堂書店.

- ・落合雄彦（編）（2011）：アフリカの紛争解決と平和構築—シエラレオネの経験—，昭和堂。
- ・掛谷誠・伊谷樹一（編著）（2011）：アフリカ地域研究と農村開発，京都大学学術出版会。
- ・川上泰徳（2011）：現地発エジプト革命—中東民主化のゆくえ—，岩波ブックレット。
- ・栗田和明（2011）：アジアで出会ったアフリカ人—タンザニア人交易人の移動とコミュニティー，昭和堂。
- ・ゴーレイヴィッチ，フィリップ（著），柳下毅一郎（訳）（2011）：ジェノサイドの丘—ルワンダ虐殺の隠された真実—，WAVE出版（新装版）。
- ・近藤 史（2011）：タンザニア南部高地における在来農業の創造的展開と互助労働システム—谷地耕作と造林焼畑をめぐって—，松香堂書店。
- ・佐川 徹（2011）：暴力と歓待の民族誌—東アフリカ牧畜社会の戦争と平和—，昭和堂。
- ・阪本拓人（2011）：領域統治の統合と分裂—北東アフリカ諸国を事例とするマルチエージェント・シミュレーション分析—，書籍工房早山。
- ・佐藤靖明（2011）：ウガンダ・バナナの民の生活世界—エスノサイエンスの視座から—，松香堂書店。
- ・サロー,ロジャー スコット・キルマン（著）（2011）：飢える大陸アフリカ—先進国の余剰がうみだす飢餓という名の人災—，悠書館。
- ・芝陽一郎（2011）：アフリカビジネス入門—地球上最後の巨大市場の実像—，東洋経済新報社。
- ・白戸圭一（2011）：日本人のためのアフリカ入門，ちくま新書。
- ・高倉博樹・曾我亨（2011）：シベリアとアフリカの遊牧民，東北大学出版会。
- ・高根 務・山田肖子 編著（2011）：ガーナを知るための47章，明石書店。
- ・田原 牧（2011）：中東民衆革命の真実，集英社新書。
- ・東京農業大学タンザニア100の素顔編集委員会（編）（2011）：タンザニア100の素顔—もうひとつガイドブック—，東京農業大学出版会。
- ・永原陽子（編）（2011）：生まれる歴史，創られる歴史—アジア・アフリカ史研究の最前線から—，刀水書房。
- ・中村香子（2011）：ケニア・サンブル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に注目して—，松香堂書店。
- ・根本利通（著） 辻村英之（編集・解説）（2011）：タンザニアに生きる—内側から照らす国家と民衆の記録—，昭和堂。
- ・バンジャマン ストラ（著），小山田 紀子・渡辺 司（訳）（2011）：アルジェリアの歴史—フランス植民地支配・独立戦争・脱植民地化—，明石書店。
- ・福富満久（2011）：中東・北アフリカの体制崩壊と民主化—MENA市民革命のゆくえ—，岩波書店。
- ・真島一郎（編）（2011）：二〇世紀「アフリカ」の個体形成—南北アメリカ・カリブ・アフリカからの問い—，平凡社。
- ・水谷 周（2011）：イスラーム現代思想の継承と発展—エジプトの自由主義—，国書刊行会。
- ・水谷 周（編著）（2011）：アラブ民衆革命を考える，国書刊行会。
- ・安岡宏和（2011）：バカ・ピグミーの生態人類学—アフリカ熱帯雨林の狩猟採集生活の再検討—，松香堂書店。
- ・山口直彦（2011）：新版 エジプト近現代史—ムハンマド・アリー朝成立からムバラク政権崩壊まで—（世界歴史叢書），明石書店。
- ・レイジ，クリス ほか（編著）（2011）：土を持続させるアフリカ農民—土・水保全のための在来技術—，松香堂。

●2012年

- ・池谷和信（編著）（2012）：ボツワナを知るための 52 章，明石書店。
- ・石本雄大（2012）：サヘルにおける食料確保—旱魃や虫害への適応および対処行動—，松香堂書店。
- ・伊藤義将（2012）：コーヒーの森の民族生態誌—エチオピア南西部高地森林域における人と自然の関係—，松香堂書店。
- ・Kabasawa, Asami (2012) : Chimpanzee Sanctuaries: Changes in human-chimpanzee relationships, 松香堂書店。
- ・川口幸也（2012）：アフリカの同時代美術—複数の「かたり」の共存は可能か，明石書店。
- ・川端正久・落合雄彦（編著）（2012）：アフリカと世界，晃洋書房。
- ・ギー ペルヴィエ（著），渡邊 祥子（訳）（2012）：アルジェリア戦争—フランスの植民地支配と民族の解放—，文庫クセジュ（白水社）。
- ・小松志朗（2012）：人道的介入における武力行使と外交交渉—ソマリア、ボスニア、コソボを事例として—，早稲田大学出版部。
- ・坂井紀公子（2012）：マーケットに生きる女性たち—ケニアのマチャコス市における都市化と野菜商人の営業実践に関する研究—，松香堂書店。
- ・佐藤 章（編）（2012）：紛争と国家形成—アフリカ・中東からの視角—，日本貿易振興機構アジア経済研究所。
- ・サルヒー，ザヒア・スマイル（編著）鷹木恵子 ほか（訳），（2012）：中東・北アフリカにおけるジェンダー—イスラーム社会のダイナミズムと多様性—，明石書店。
- ・塩田勝彦（編）（2012）：アフリカ諸語文法要覧，溪水社。
- ・嶋田義仁（2012）：砂漠と文明—アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明論—，岩波書店。
- ・白戸圭一（2012）：ルポ資源大陸アフリカ—暴力が結ぶ貧困と繁栄—，朝日文庫。
- ・鈴木隆子（2012）：ザンビアの複式学級—アフリカにおける万人のための教育(EFA)達成を目指して—，花書院。
- ・孫暁剛（2012）：遊牧と定住の人類学—ケニア・レンディーレ社会の持続と変容—，昭和堂。
- ・長沢栄治（2012）：アラブ革命の遺産—エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム—，平凡社。
- ・長沢栄治（2012）：エジプト革命—アラブ世界変動の行方—，平凡社新書。
- ・服部志帆（2012）：森と人の共存への挑戦—カメルーンの熱帯雨林保護と狩猟採集民の生活・文化の両立に関する研究—，松香堂書店。
- ・Funada-Classen, Sayaka (船田クラーセン さやか) (2012) : The Origins of War in Mozambique. Ochanomizu-Shobo.
- ・松浦直毅（2012）：現代の「森の民」—中部アフリカ、バボンゴ・ピグミーの民族誌—，昭和堂。
- ・松田素二・津田みわ（編著）（2012）：ケニアを知るための 55 章，明石書店。
- ・村尾るみこ（2012）：創造するアフリカ農民—紛争国周辺農村を生きる生計戦略—，昭和堂。
- ・八塚春名（2012）：タンザニアのサンダウェ社会における環境利用と社会関係の変化—狩猟採集民社会の変容に関する考察—，松香堂書店。
- ・吉田昌夫・白石壮一郎（編著）（2012）：ウガンダを知るための 53 章，明石書店。